



石田波郷



石塚友二



清水基吉



中村草田男

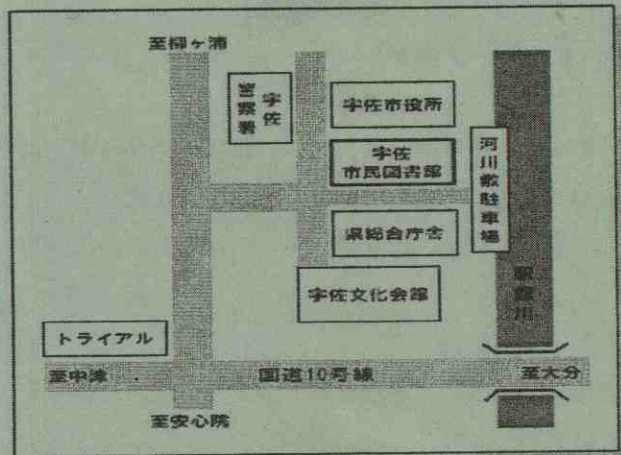
ごあいさつ

前回に引き続き、三和文庫収蔵品展の第2弾として、恒例の横光利一展を企画しました。2001年12月、宇佐市は、三和文庫として横光家旧蔵資料64点を収蔵しました。横光利一の遺族が管理していた自筆原稿や遺品など、大変貴重な資料ばかりです。その中の主な資料を展示しました。

また、今年で第10回目の節目を迎える「横光利一俳句大会」の開催にあわせ、横光利一の句会仲間をプロフィールと著書で紹介しています。横光利一を囲む句会を「十日会」といいます。昭和10年から15年ころまで続きました。もともとは、バラバラに横光宅を訪ねると執筆の邪魔になるだろうと気兼ねをした門下生たちが、毎月十日に師を囲んだ定例の懇親会でしたが、横光自身の提案で句会となりました。メンバーは、俳人はもちろん、小説家、詩人、編集者など多彩な顔ぶれで、和やかな雰囲気は想像されます。どうぞごゆっくり、ご覧ください。

平成20(2008)年10月18日

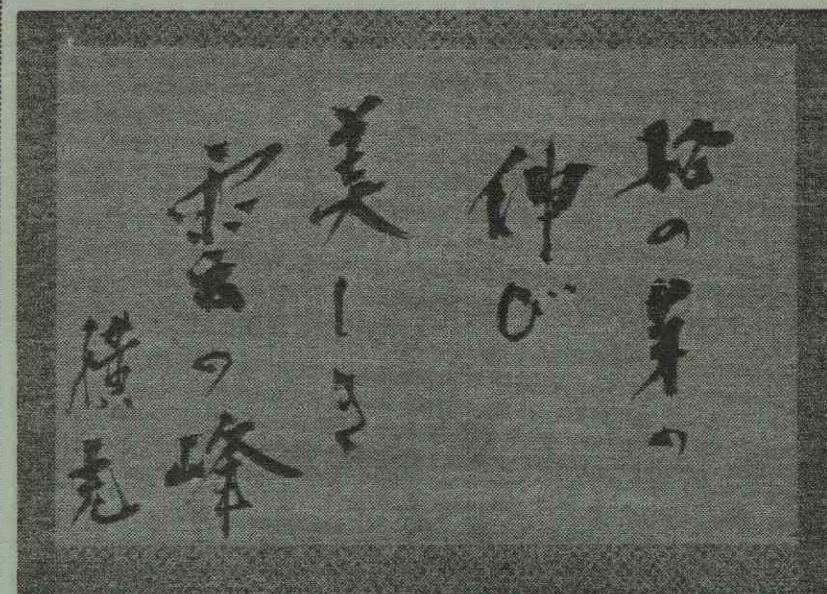
宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



平成20(2008)年10月18日/発行・宇佐市民図書館
大分県宇佐市大字上田1017-1 TEL 0978-33-4600

秋の特別企画・三和文庫収蔵品展②

横光利一と 十日会展



2008年

10.18(土)~11.30(日)

10:00~18:00(日曜のみ ~17:00)

休館日=毎週月曜日・月末木曜日

宇佐市民図書館・渡網記念ギャラリー

横光利一と「十日会」

横光利一を囲む会の名称。出入りの多い訪問客に苦慮しないように門下の配慮から昭和10年より始められた。以後、毎月十日に横光を外へ連れ出し、持ち回りの幹事で会を持った。2回目の会合の時、「集まって雑談しているだけではつまらないから句会をやる」という横光の提唱で運座がはじまった。第3回から赤坂山王の山の茶屋に場所を設けて以降、ほとんど石塚友二が世話役の中心となった。会はおよそ5年ほど続き、その間の出席者に石田波郷、石川達三、石塚友二、江間章子、大鹿卓、辛島栄成、北川冬彦、菊岡久利、桔梗五郎、草野心平、今官一、庄野誠一、多田裕計、寺崎浩、永井龍男、中山義秀、中里恒子、中村草田男、橋本英吉、長谷川湖代、藤沢桓夫、村松泰太郎、丸岡明、森敦らが出た。



昭和11年、ヨーロッパ行きの船で一緒になった高浜虚子(左)と。後列左が、箱根丸機関長の上畑楠窓(安心院生まれ)。楠窓は、虚子の俳句の弟子。虚子や横光にまじって船中句会にも参加した。

展示目録 [合計85点]

【横光利一遺品】 (5点)

本籍地宇佐の記入されたパスポート
文芸家協会会員証

海軍報道班員身分証明書

横光利一宛て紹介状の記入のある川端康成の名刺
岡本太郎画・横光利一のデス・スケッチ

【はがき】 (1点)

ベルリンから妻・千代宛 (昭和11)

【自筆原稿】 (3点)

「洋燈」(絶筆) / 「鉄棒」 / 「微笑」断片

【講演筆記ほか】 (7点)

「転換期の文学」(東京帝国大学での講演筆記)

「十日会々報」(5号) 昭和12年1月

「十日会々報」(23号) 昭和13年7月

「十日会々報」(24号) 昭和13年9月

(会報はそれぞれ、オリジナルとレプリカ)

【額・軸】 (8点)

「河の石青みどろ濃く雷来る／横光」

「カムランの島浅黄なる衣更／横光利一」

「夏の花一つもあらず雷来る／横光」

「蟻台上に月高し／横光」

「松の芽の伸び美しき雲の峰／横光」

(「横光利一書 清水基吉識」の箱書きのある桐箱付き)

「横手初めてぞ心静まれば鮎有りといふ／横光」

(「平成三年仲秋 清水基吉識」の箱書きのある桐箱付き)

—以上、すべて三和文庫

【横光利一写真】 (5点)

「雨過山房で」(2) / 「森敦と」 / 「佐野繁次郎と」

／「東京日日新聞社で」(入口)

【年譜・ポスター】 (2点)

横光利一年譜

「横光利一誕生100年記念行事のポスター」(宇佐市・1999)

【十日会の仲間たち】肖像写真とプロフィール (17点)

上畑楠窓／石田波郷／石川桂郎／石塚友二／辛島栄成／北川冬彦／
菊岡久利／草野心平／清水基吉／多田裕計／永井龍男／中里恒子／
中村草田男／中山義秀／橋本英吉／長谷川春草／藤沢桓夫

【書籍】 (37点)

『楠窓を偲ぶ』日比和一編(其編纂所・1940)

『剃刀日記』石川桂郎(目黒書店・1951)

小説『柿の木』橋本英吉(非凡閣・1943)題・横光利一筆

詩集『戦争』北川冬彦(厚生閣書店・1929)

詩集『花電車』北川冬彦(宝文館・1949)横光「序」

詩集『貧時交』菊岡久利(第一書房・1936)

『時の玩具』菊岡久利(日本文学社・1938)

戯曲『野鴨は野鴨』菊岡久利(三笠書房・1940)

『長谷川春草句集』長谷川春草(さつき発行所・1936)

『横光利一文学読本』石塚友二編(第一書房・1937)

句集『方寸虚実』石塚友二(甲鳥書林・1941)

『鶴隨筆集』石塚友二編(人文閣・1941)

『春立つ日』石塚友二(光風社書店・1973)

『自選自解 石塚友二句集』(白鳳社・1979)

『わが父草田男』中村弓子(みすず書房・1996)

『蕪村集』中村草田男(講談社・2000)

『定本俳句入門』中村草田男(みすず書房・2001)

『子規、虚子、松山』中村草田男(みすず書房・2002)

講演集『俳句と人生』中村草田男(みすず書房・2002)

句集『大虚鳥』中村草田男(みすず書房・2003)

『石田波郷集 現代俳句の世界7』(朝日新聞社・1984)

蝸牛俳句文庫『石田波郷』山田みづえ編・著(蝸牛社・1994)

『江東歳時記・清瀬村(抄)』石田波郷(講談社・2000)

『わが父波郷』石田修大(白水社・2000)

『波郷句自解』石田波郷(梁塵社・2003)

『わが光太郎』草野心平(講談社・1990)

『宮沢賢治覚書』草野心平(講談社・1991)

小説『雁立』清水基吉(鎌倉文庫・1946)

句集『宿命』清水基吉(俳句研究社・1966)

句集『冥府』清水基吉(八重洲工房・1972)

句集『遊行』清水基吉(槐書房・1978)

『日矢』清水基吉編(日矢俳句会・1998~1999)4冊

『人生師友』藤沢桓夫(弘文社・1970)

『大阪自叙伝』藤沢桓夫(朝日新聞社・1974)